

西知多道路の整備促進に関する要望書



平成28年1月

西知多道路推進協議会

西知多道路の整備促進について

知多地区は、名古屋市の南部に位置する5市5町からなり、人口約62万人、面積は約392km²であります。

開港10周年を迎えた中部国際空港や約6兆円もの貿易黒字を記録した国際拠点港湾である名古屋港を擁するなど、世界につながる玄関口としての役割を果たす大変重要な地区であります。

グローバル経済の進展や新興国の台頭により、国際競争が激しくなる中、この知多地区を含む中京大都市圏が、我が国の「経済の好循環」のエンジンとなり、国内外から人・モノ・カネ・情報を引きつけ、世界と直結する一大産業拠点としての役割を強固にしていかなければなりません。そのためには、中部国際空港の二本目滑走路整備を始めとした機能強化を目指すとともに、本格工事に着手され、2027年度開業予定のリニア中央新幹線のインパクトを最大限に活かし、名古屋駅と中部国際空港の連携を強化することが不可欠であり、その実現に向けて、地域が一丸となって取り組んでいるところです。

しかし、現在、中部国際空港への主なアクセス道路は、知多半島の自動車交通の円滑化と観光振興等を目的として整備された知多半島道路であり、観光シーズンの交通渋滞や交通事故時の通行止めなどもあるため、国際拠点空港へのアクセス道路としての信頼性や高速性が必ずしも高くない状況です。

西知多道路は、国際拠点空港の中部国際空港と高速自動車国道の新東名高速道路（伊勢湾岸自動車道）を直結するだけでなく、名古屋高速道路を経由し、リニア中央新幹線名古屋駅とも結ぶことから、2027年度リニア開業までには是非完成させていただきたいと考えております。本道路の整備により、知多半島道路とともに中部国際空港と名古屋駅間のダブルネットワークが形成され、定時性の確保、利便性の向上に大きく貢献するとともに、南海トラフ巨大地震等の災害時においては緊急輸送の役割を担うなど、国土の強靱化の観点からも、大変重要な役割を果たします。

また、直轄国道の地方への権限移譲の議論が進む中、平成 25 年 12 月に閣議決定された「事務・権限の移譲等に関する見直し方針について」においては、地方管理道路・河川の直轄編入を含め、必要な見直しを行うこととされており、国際拠点空港と高速自動車国道を直結する本道路は、国と地方の役割分担のもと、国が責任を持つべき道路として、国により事業化を図るべきと考えております。

都市計画の決定がされ、また、今年度からは国による国際空港へのアクセスや周辺的高速道路ネットワークを踏まえた、効率的・効果的な整備手法の検討調査が実施されており、この西知多道路の一日も早い事業化に対する期待は大変高まっているところです。

そのため、次の事項の実現に特別のご配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。

決 議 事 項

西知多道路は、国際拠点空港の中部国際空港と高速自動車国道の新東名高速道路（伊勢湾岸自動車道）を直結するだけでなく、名古屋高速道路を経由し、リニア中央新幹線名古屋駅とも結ぶことから、2027 年度リニア開業までには是非完成させていただきたく、会員の総意として次の事項について強く要望します。

- 1 来年度に西知多道路の新規事業化を図ること。
- 2 真に必要となる道路整備についての予算を確保し、緊急かつ計画的に事業推進すること。

平成 28 年 1 月 22 日

西知多道路推進協議会



国道 247 号の渋滞状況（東海市内）



LCC（春秋航空）新規乗り入れ



開発が進む空港対岸部（常滑市地内）



知多半島道路の交通事故状況



＜西知多道路推進協議会 構成団体＞

- 愛知県
- 名古屋市
- 東海市
- 知多市
- 常滑市
- 名古屋港管理組合
- 名古屋商工会議所
- 一般社団法人中部経済連合会
- 中部国際空港株式会社